

対カーボベルデ共和国 事業展開計画

2021年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続可能な成長による安定した社会の形成支援
---------------	-----------------------

重点分野 1 (中目標)	経済基盤整備支援
-----------------	----------

<p>【現状と課題】 カーボベルデは、2007年（平成19年）に後開発途上国（LDC）を卒業。現在は中所得国に分類されているが、狭い国土、離島という隔絶された地理条件、極めて限られた降雨量、土壌悪化等による穀物生産が困難な土地条件や天然資源の欠如といった経済的に不利な条件を多く抱えている。 2017年にカーボベルデ政府が策定した「持続的開発戦略的計画2017-2021」（PEDS）では、経済発展と環境保全の両立、社会的包摂を伴う格差是正、民主主義と国家主権の強化によって、大西洋に位置する地政学的な利点を生かした経済構造への転換を図ることを国家の開発目標に掲げており、持続的な発展の土台となる基礎インフラの整備が課題となっている。 我が国は、2020年2月に官民共同投資促進ミッションをセネガルに派遣した際に、カーボベルデの政府代表者のセネガル来訪を働きかけ、ミッションに参加した日本企業にカーボベルデにおける投資機会をアピールし、日本企業による投資を通じたカーボベルデの経済開発に貢献する姿勢を打ち出したところ、ODAによる既存の取り組みとの有機的な連携を目指す。</p>	<p>【開発課題への対応方針】 競争力のある経済の実現及び持続的な発展を可能にするべく、再生可能エネルギーを含む電力セクター改革や安定的な水供給に資する基礎インフラ整備の強化を円借款等を活用して支援する。 日本からの投資を促進するため、ABEイニシアティブ等既存の取り組みを通じた支援を継続する。</p>
---	---

開発課題 1-1 (小目標) 経済インフラ整備 支援	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
					2020 年度 以前	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度			
経済インフラ整備 プログラム	有償資金協力を通じたインフラ整備事業をプログラム実施の中心に据え、エネルギー及び水分野のインフラ整備を行っていく。		送配電システム整備計画	有償	■						61.86	7, 13	
			サンティアゴ島上水道システム整備計画	有償	■	■	■	■			152.92	6, 9, 17	
			経済社会開発計画(給水分野)	無償	■						2.00	6, 11	
			経済社会開発計画(水産分野)	無償		■	■				2.00	14	
			ハイブリッド発電システム導入プロジェクト	技プロ		■	■	■				7, 11, 13	
			アフリカ地域総合防災行政	国別研修		■	■					11, 13	
			アフリカ地域総合防災	国別研修			■	■	■			11, 13	
			広域水産資源共同管理能力強化（セネガル）	技プロ		■	■	■				14	
			ポルトガル語アフリカ諸国の職業訓練能力強化（ブラジル）	第三国研修		■	■					14	
			アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）「修士課程およびインターンシップ」プログラム	長期研修		■	■					4	
			SDGsグローバルリーダー	長期研修		■	■					4	
			経済インフラ整備分野の課題別研修	課題別研修他		■	■					9	

重点分野2 (中目標)	社会的包摂性の促進と格差是正に資する支援												
開発課題2-1 (小目標) 基礎的社会開発支援	【現状と課題】 カーボベルデは、穀物生産が困難な土地条件によって多くの食料を輸入に依存している。また、主な収入源となっている観光収入、海外出稼ぎ労働者からの送金、海外直接投資（FDI）は欧州経済の動向の影響を受けやすく、経済構造上の脆弱性を抱えているため、依然として所得格差が大きく、一日1.2ユーロ以下で暮らす貧困層が存在する。そのため、食料安全保障の確保や格差是正に資する支援が重要である。 また、2020年3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、医療施設の人的・設備的能力に大きな負担がかかるとともに、移民送金に依存する村落部の住民の経済・社会状況が悪化している。					【開発課題への対応方針】 草の根・人間の安全保障及び食糧援助等の無償資金協力を活用して食料安全保障の確保及び格差是正に資する支援を実施し、貧困削減に貢献する。 新型コロナウイルスによる経済・社会的影響を緩和するため、食糧援助等の既存のスキームを活用した支援等を検討する。							
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
			食糧援助(2019年度)	食糧援助	2020年度以前	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2.00	1, 2	
			食糧援助(2020年度)	食糧援助							2.50	1, 2	
			社会基盤整備分野等の課題別研修	課題別研修他								1, 2, 3, 4	
		社会基盤整備分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.99	4, 5		

【凡例】 「協定」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(=個別専門家)、「個別機材」(=個別機材)、「国別研修」(=国別研修)、「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=JICA海外協力隊)、「第三国専門家」(=第三国研修)、「現地国内研修」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(=水産無償資金協力)、「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「基礎調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「実線「――」」(=実施期間)、「破線「- - -」」(=実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】 1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf